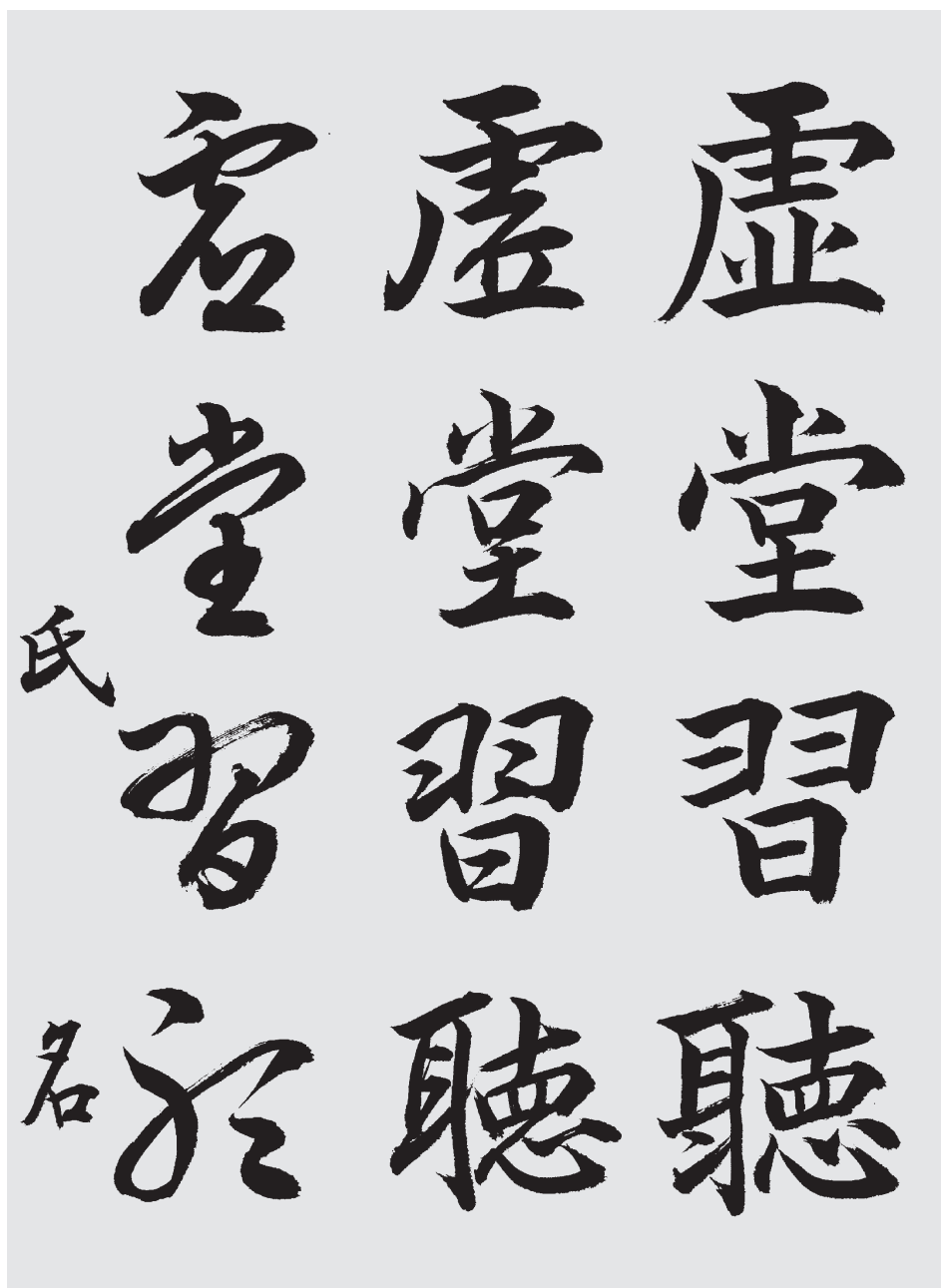


三体千字文を書く（56）

締切り 八月二十一日（必着）



回作品の出し方

▼硬筆部ⅡB5判（二五七mm×一八二mm）以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。（黒色に限る）
▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。（筆ペン可）
▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限りです。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績（毛筆の場合は毛筆漢字の成績）を、作品余白にお書き下さい。
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲昭先生書

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六（一九八一）年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲昭先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝（在位五〇二―五四九）の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡からまとめたといわれる。

〔解説〕

空谷傳聲

虚堂習聴

人気ない谷間で声を発すれば、こだまとなって声を伝える。

人のいない家にも耳がある。独りを慎むべきである。

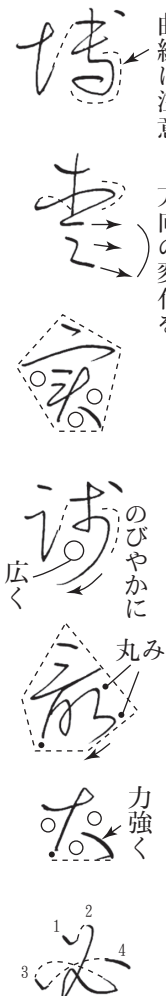
準初段から六段まで

新入から1級まで

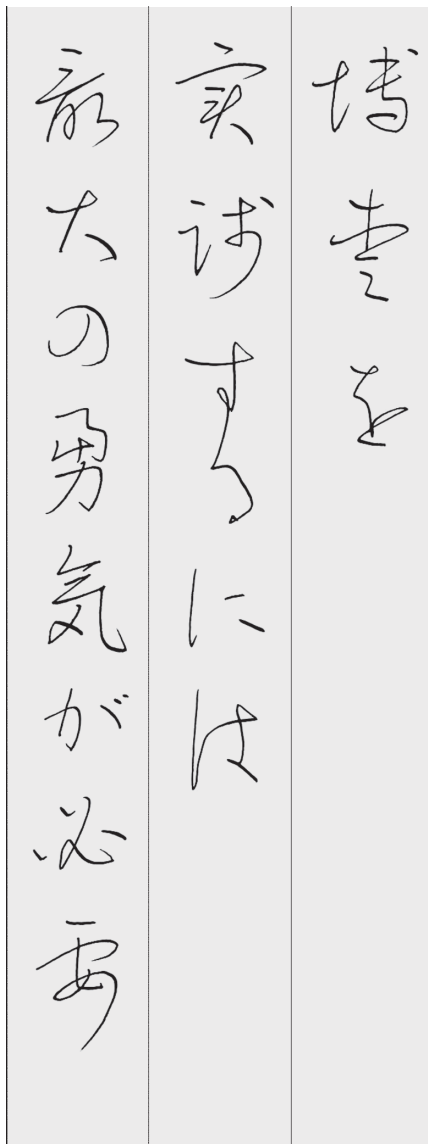
〔解 説〕

〔解 説〕

〔読み〕博愛を 実践するには 最大の勇氣が必要



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。
曲線に注意 方向の変化を



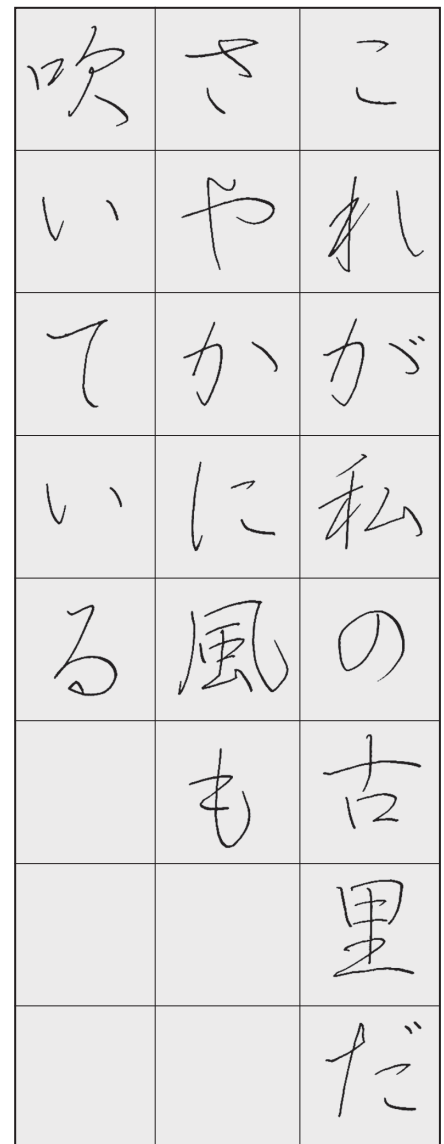
尾 郷 翠 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

◆9月課題予告(行書)
真の勇氣は
目撃者のいない
場合に示される
▼教範・書範Ⅱ楷書
▼師範Ⅱ行草または草書

★博愛を：(書体Ⅱ行草または草書)
ガンジー(一八一八〜一八八三)
インドの政治家
彼は非暴力的抵抗による、反帝国主義運動を指導しました。
博愛は、不特定多数に対する愛だけに、確固とした信念が根底になければなりません。そして信念をささえるものとしての勇氣が、欠かせないのです。
博愛主義を実践するのは最も人間らしい生き方でありましょう。



古 田 瑞 苑 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆9月課題予告(楷書)
婦人の胸中には
愛の源泉がある
リットン

★これが：(書体Ⅱ行書)
中原中也(一九〇七〜一九三七)
昭和初期の詩人
この言葉は、三十歳という若さで亡くなった中原中也の「帰郷」という詩の一節です。
人が故郷に帰った時の、何ともいえない安心感を表現しています。
しかし実際には、彼は十八歳のとき故郷である山口県から上京しましたが、その後、心身の衰弱のため帰郷しようとしてしました。しかし途中鎌倉で発病し、とうとうその地で亡くなりました。

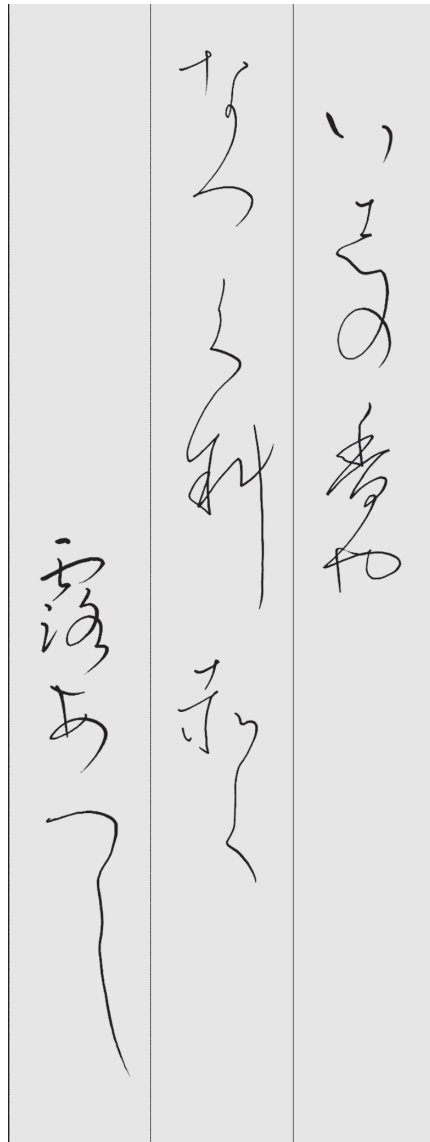
一般部かな課題

締切り 8月21日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

石の香や夏草赤く露暑し

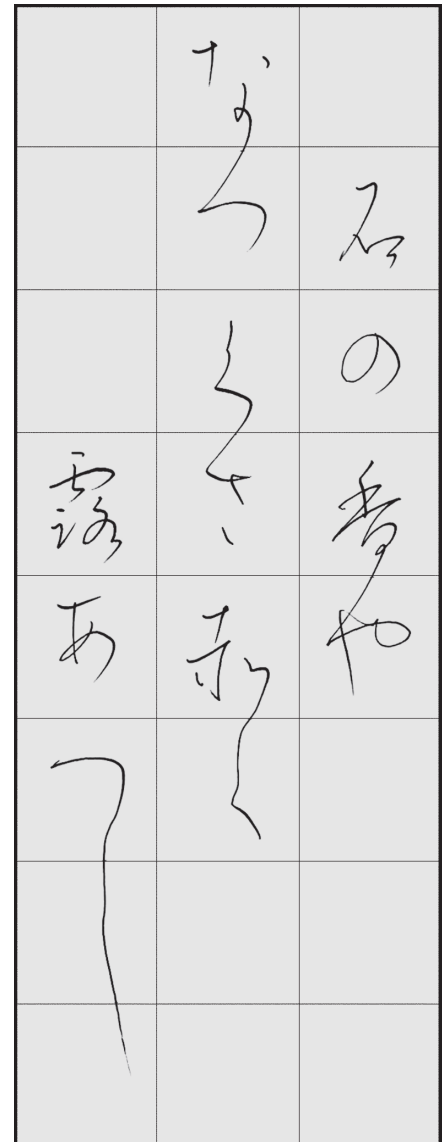


石垣秀華書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

石の香や夏草赤く露暑し



石垣秀華書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

石の香や夏草赤く露暑し

(芭蕉句集より)

〔出典〕元禄二年。曾良随行日記。殺生石の題がある。この石は、那須野にある。

〔作者〕松尾芭蕉。正保元年(一六四四)〜元禄七年(一六九四)俳人。名は宗房、別号は桃青・風羅坊。

〔大意〕殺生石には特有の毒気があって、青かるべき夏草は赤く、涼しかるべき露もまたそのために暑くるしい感じがする。誠に荒涼たる景色だとの意。

〔解説〕一行目を少し下げて書きはじめ、二行目を上から軽快に短くし、三行目で筆圧を加えて下げて書き終わった。

〔古筆参考〕

志

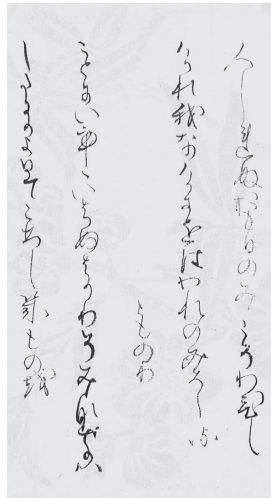
久

◆9月課題予告

鳩の声身にしみわたる石戸哉

〔古筆参考〕

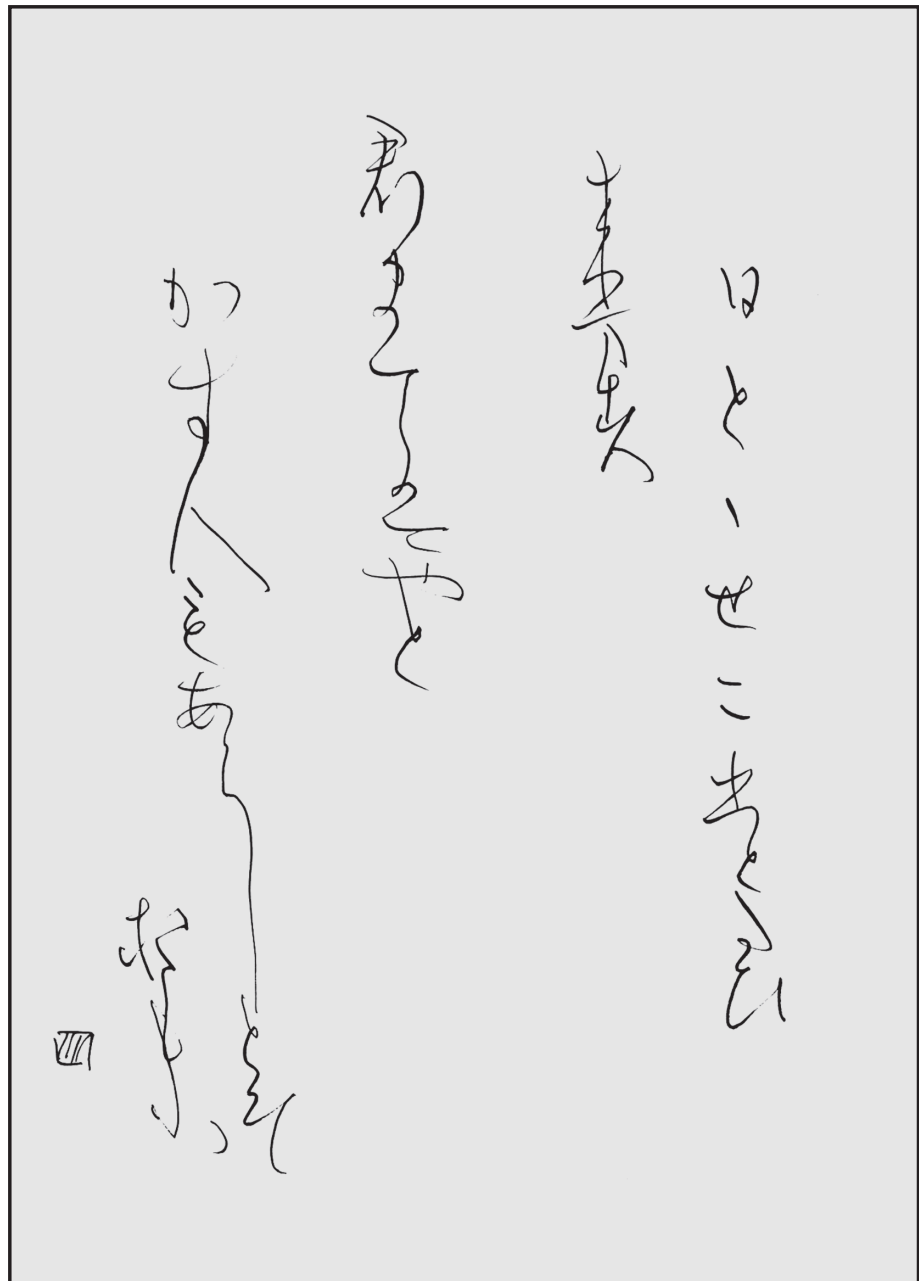
ほん あ み ぎれ
本阿弥切



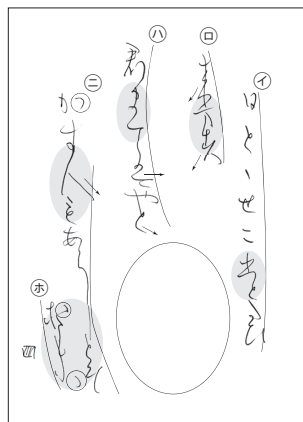
人しれぬおもひのみこそわびし
介 支 日 曾 飛
けれ我なげきをばわれのみぞしる
利 流
ことのり
ことにていはいはぬばかりぞみなせかは
多 尔 帝 者 者 可 利 曾 耶 可 八
したにかよひてこひしきものを

締切り 八月二十一日（必着）

築瀬舟香書



〔解説〕



〔解説〕

〔出典〕古今和歌集

（新潮日本古典集成）

一年にひとたび来ます君待てば
宿かす人もあらじと思ふ
日とせ二 悲 多 万 春 盤
一 年 に ひ と た び 来 ま す 君 待 て ば
宿 か す 人 も あ ら じ と 思 ふ

〔歌意〕織姫は一年に一度と決めて訪れてくる彦星を待っているのだから、そのほかには宿を貸す相手など、まずあるまいと思う。

◆9月課題予告

このたびは幣もとりあへず手向山
もみぢの錦神のまにまに

締切り 8月21日(必着)

今年の暑さは例年になく厳しい
ものでしたが、お疲れを出されて
いませんか。野外でのテント張り
から、上流の滝まで二時間歩いた
こと。子供達の絵日記は、楽しい
思い出でうまりそうです。

今年の暑さは例年になく厳しい
ものでしたが、お疲れを出されて
いませんか。野外でのテント張り
から、上流の滝まで二時間歩いた
こと。子供達の絵日記は、楽しい
思い出でうまりそうです。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

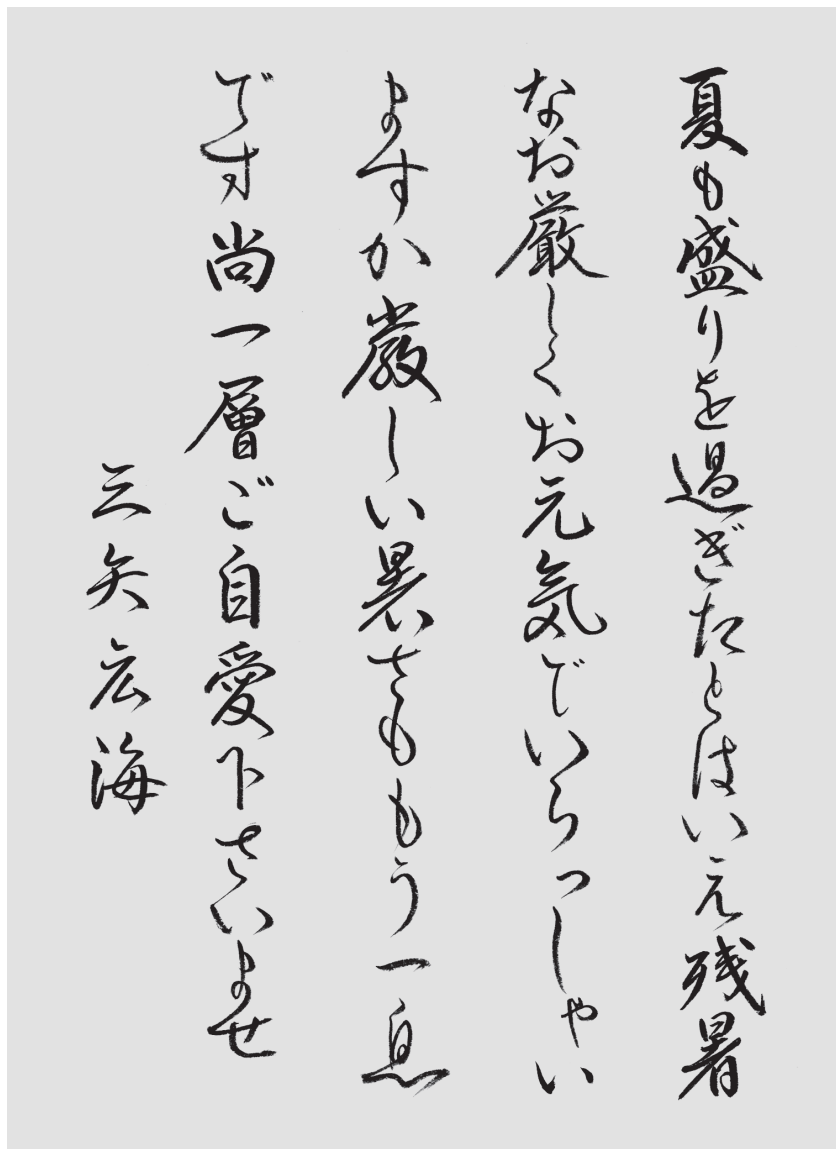
流しの料金メーター制タクシーは
大正元年に初めて東京に出現。

富山県射水市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

い とう ばい こう 書
伊 藤 梅 香



締切り 八月二十一日 (必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

新井 龍峰 書

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つぎしました。

(ご自分の氏名)

夏も盛りを過ぎたとはいえ残暑
なお厳しくお元気でいらっしゃい
ますか 厳しい暑さもう一息
です 尚一層ご自愛下さいませ



〔条幅解説〕
今月の手本は、左の写真 (原寸大・羊毛筆) で書きましたが、もう少し大きめがよいと思われるます。

〔大意〕 茂れる真夏の
木立が清き泉に影を浸
している。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

清水翠芳書

夏雲多 奇峰

かうんきほうおほし
夏雲多奇峰

〔大意〕夏の空の雲は種々なる形して奇態な峰を成すのである。

〔解説〕

夏 雲 多 奇 峰

◆9月課題予告(楷書)

秋高佳 風月

準初段から師範まで

須田 一葉 臨

精微體生 減之

精
微
體
生
減
之

精微體生減之

〔解説〕

〔出典〕 集字聖教序（六七二）

〔筆者〕 王羲之法書より集字

〔読み〕（空有の）精微を（極め、

生滅の（機要を）体す。

精微 體生 減之

※文献によって字体が異なる場合があります。

◆9月課題予告

涼之 風神

締切り 8月21日(必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書

赤とんぼ筑波に雲もなかりけり

まさおかしき
正岡子規

〔句意〕

筑波の空は雲一つなく晴れわたって、澄んだ秋空のすがすがしさが捉えられた句。作者の心もまた明るく弾んでいる。

〔古筆参考〕

徒っ

者_は

尔に

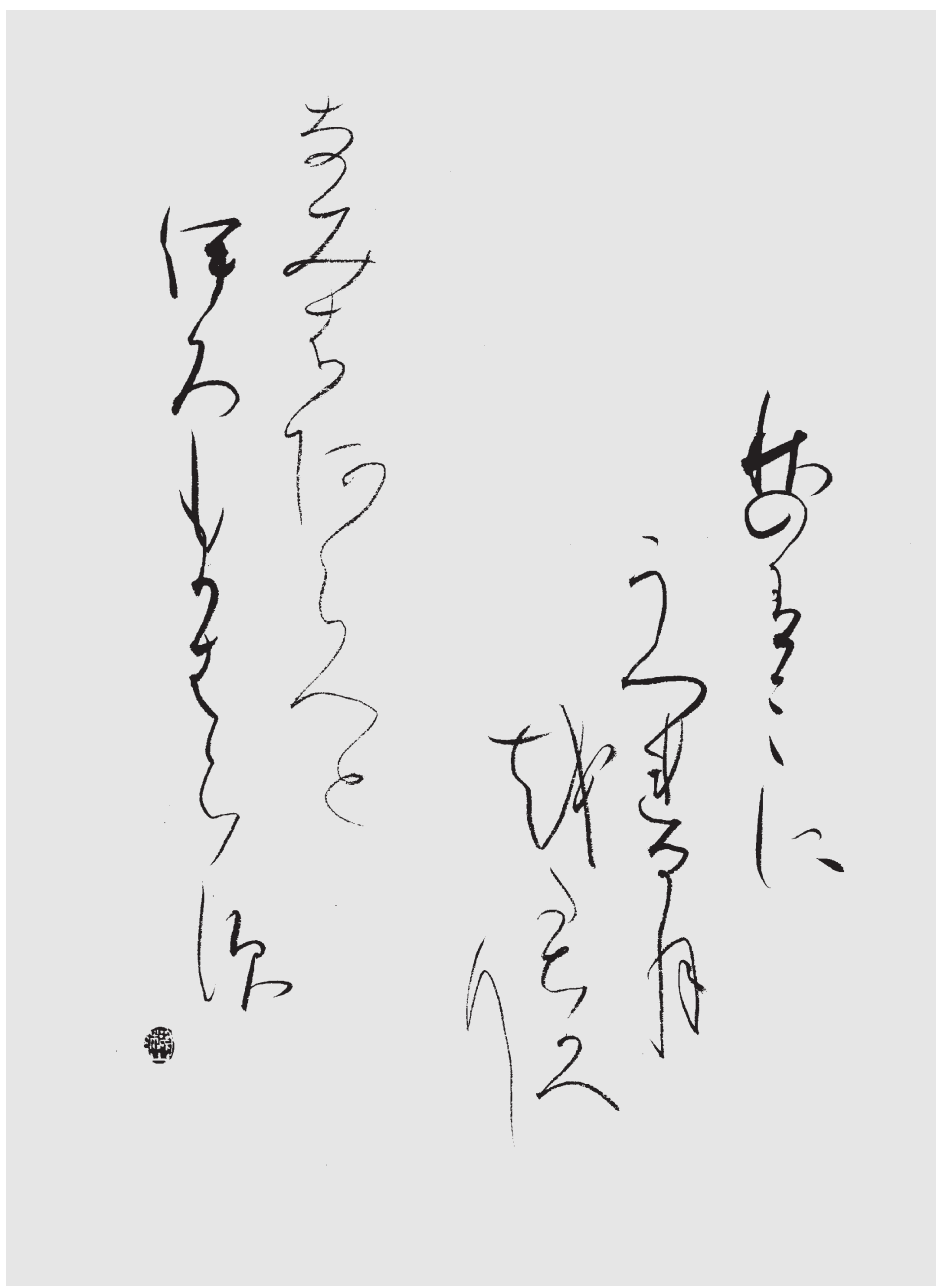
具^く

◆9月課題予告

かねたたき
鉦叩きこゆる何もなき砂に
すな

準初段から師範まで

浅井機山先生書



秋の海にうつれる月を立ちかへり

波は洗へど色も変らず

清原深養父

〔歌意〕

秋の海の面に映っている月を、くりかえし
波は洗うけれど、この月の色は変わらない。

〔古筆参考〕

有う

連れ

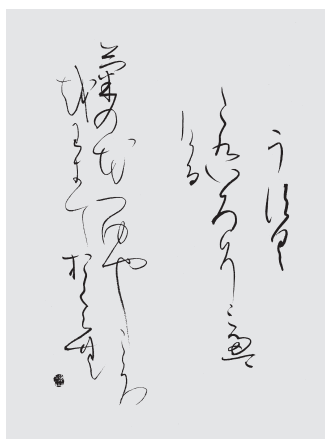
多た

奈な

者は

阿あ

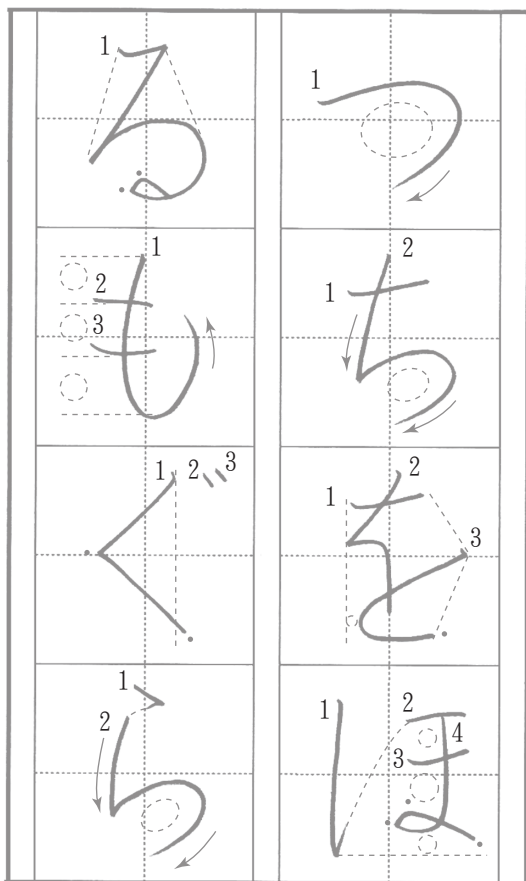
◆9月課題予告



薄くこくいろぞ見えける菊の花

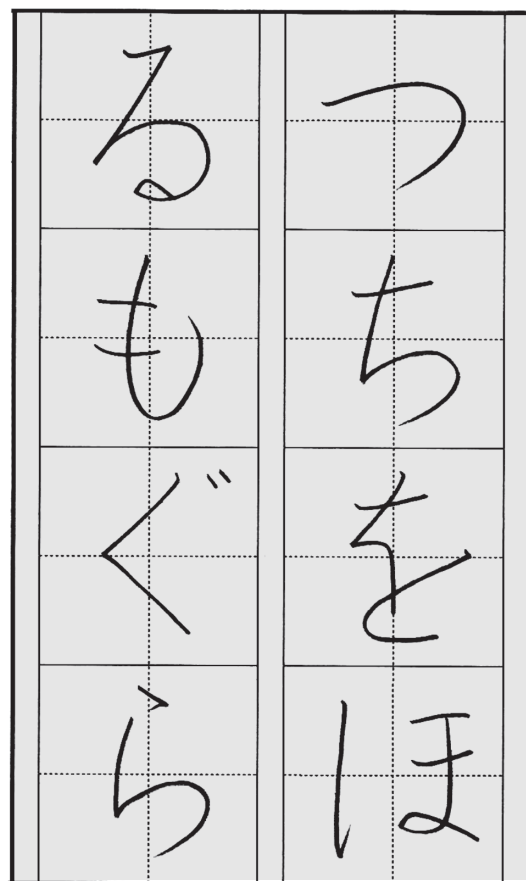
露や心をわきて置くらむ

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



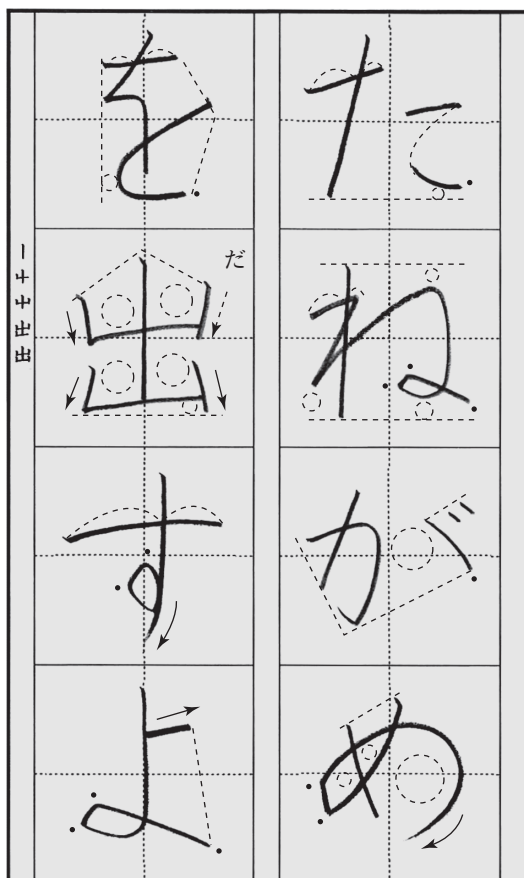
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



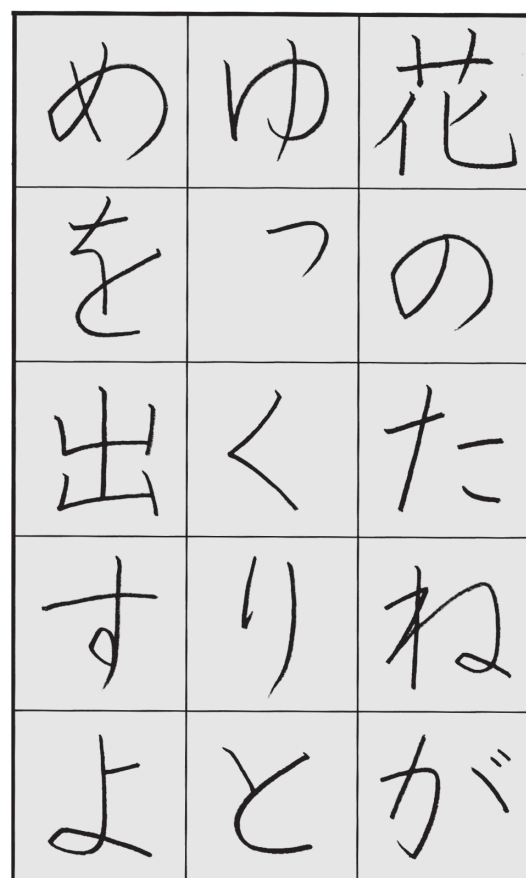
よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

の	風	かぜ
い	で	
ね	水	スイ
が	田	デン

新入1級

ゆ	田	強
れ	の	い
て	い	風
ま	ね	で
す	が	水

小二年

準初段以上

大	福	フク
当	引	び
た	き	
り	で	

新入1級

等	福	商
大	引	店
当	き	が
た	で	い
り	一	の

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

岸	静
白	か
波	な
波	海

新入1級

る	に	静
白	打	か
い	ち	な
波	よ	海
頭	せ	岸

小四年

準初段以上

集	田
木	舎
登	虫
	採

※田舎Ⅱ単語としてこのように読みます。
解説(よく見て習いましょう)

登	虫	田
り	採	舎
を	集	で
し	や	こ
た	木	ん

小五年

(全員)

小四年以上 前 岨 玉 華 書

解説(よく見て習いましょう)

待
タイ
イナハナ交

交
コウ
リユウ

券
ケン
ハナハナ流

流
リユウ
セン

当
トウ
ハナハナ戦

戦
セン
シヨウ

選
セン
イナハナ招

招
シヨウ

用具 自由(黒色に限る)

小六年

当	待	交
選	券	流
し	が	戦
届	二	の
く	枚	招

(全員)

中二・三年 (行書)

興	街	立
味	頭	候
を	演	補
抱	説	者
く	に	の

中一年 (行書)

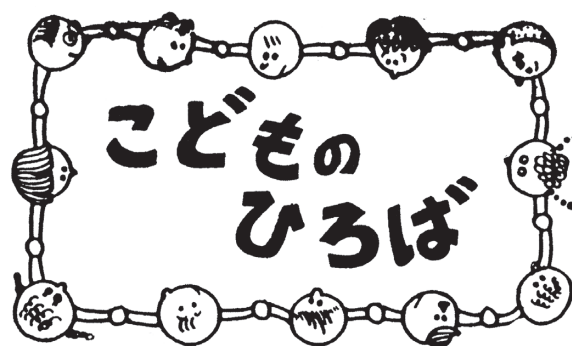
出	を	恐
掛	発	竜
け	掘	の
ま	し	化
す	に	石

▼小三年以下の課題 いし かわ か すい 書
石 川 加 翠

遊 ^{あそ}	そ	バ	新 ^{しん}	夏 ^{なつ}
び	父 ^ふ	ス	か	休 ^{やす}
に	母 ^ぼ	に	ん	み
行 ^い	の	乗 ^の	線 ^{せん}	に
き	家 ^{いえ}	っ	と	
ま	に	て		
す				



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 8月21日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題 さ とう ほう せん 書
佐 藤 芳 泉

満 ^{まん}	百	赤 ^{あか}	夏 ^{なつ}	花 ^{はな}
開 ^{かい}	日	や	空 ^{そら}	街 ^{かい}
で	紅	白 ^{しろ}	に	道 ^{どう}
す	の	・	映 ^は	沿 ^{ぞう}
	花 ^{はな}	ピ	え	い
	が	ン	る	に
		ク		は
		の		



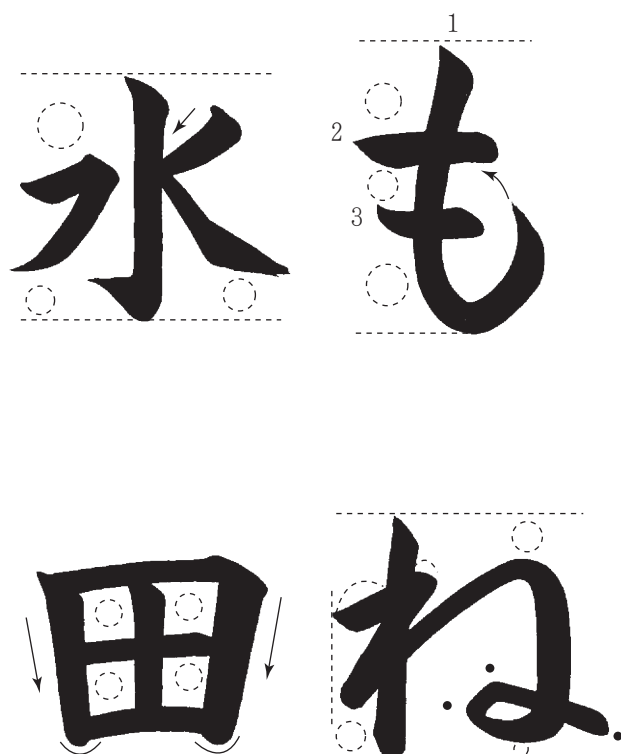
※百日紅^{さるすべり}＝単語としてこのように読みます。

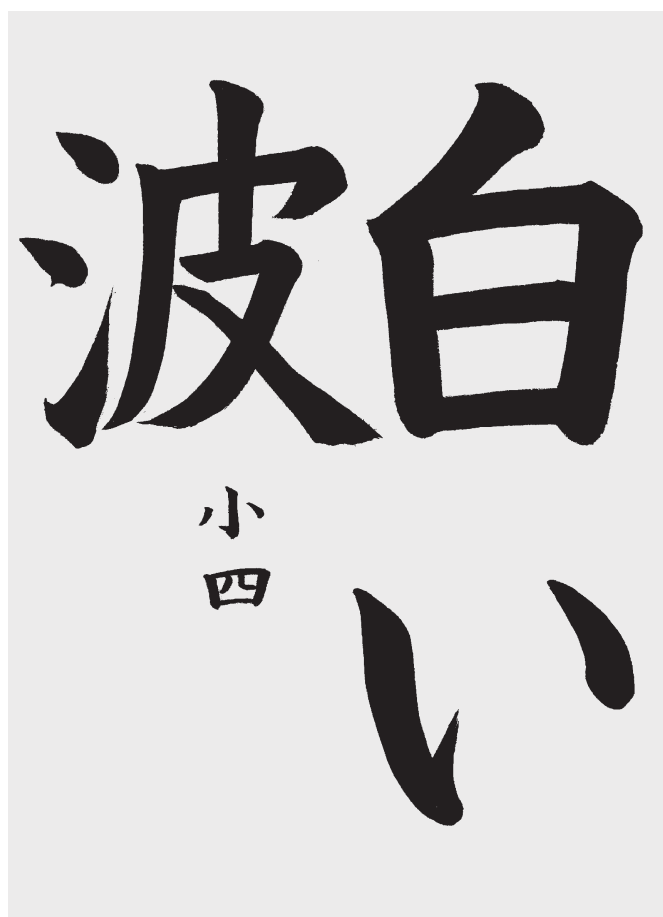
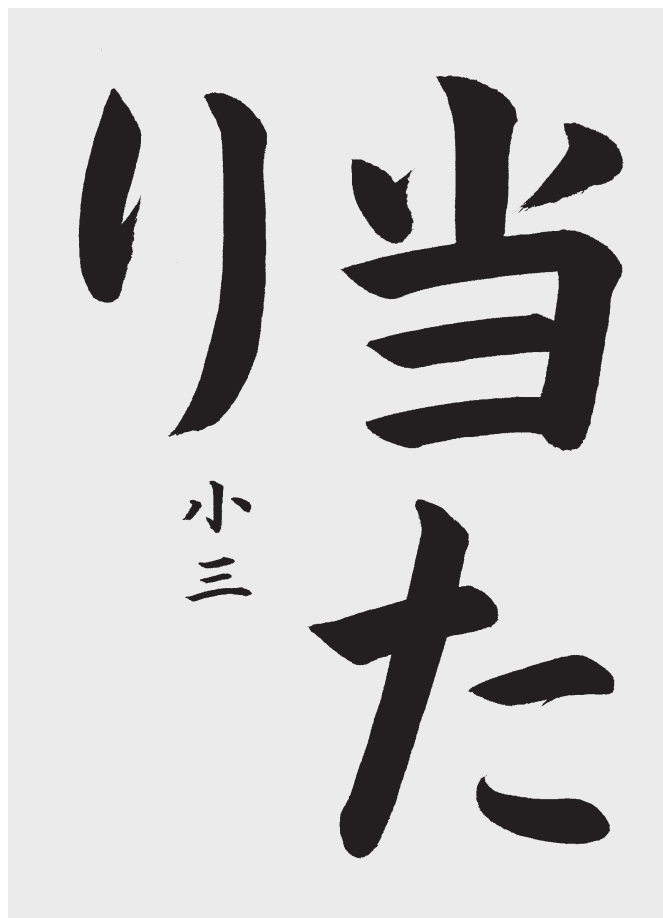
◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。







小三・小五年

水野碧友書
みずの へき ゆう

中
二
三

街演
頭説

小六
中二・三年

永谷
恵子
書

招待券

小
六

掘

待

街

券

説

券
中心

中
一
化石
掘

※行書はリズムよく筆を運ぶことが大切です。